

多様な学びの場づくりを探る講座パート2（全3回）実施報告書

【第1回】これからの「学校」をどうとらえるか

- 1 開催日時：令和6年10月20日(日) 13:30～16:00
- 2 開催場所：青森県総合社会教育センター 第2教材開発室
- 3 講師（ゲストスピーカー）青森中央学院大学教授 成田 昌造 氏
- 4 参加者 19名
- 5 主な内容
 - ①オリエンテーション
 - ②ゲストスピーカーのお話、質疑応答
 - ③グループワーク（学校の現状の問題と課題／「こんな学校であってほしい」）
 - ④全体でのシェアリング、ふりかえり



【第2回】子どもの居場所づくりと学びの場の保障

- 1 開催日時：令和6年10月27日(日) 13:30～16:00
- 2 開催場所：青森県総合社会教育センター 第2教材開発室
- 3 講師（ゲストスピーカー）青森県社会福祉協議会社会貢献活動推進室 葛西 裕美 氏
- 4 参加者 20名
- 5 主な内容
 - ①オリエンテーション
 - ②ゲストスピーカーのお話、質疑応答
 - ③グループワーク（福祉領域での居場所づくり／教育と福祉の連携）
 - ④全体でのシェアリング、ふりかえり



【第3回】「学び直しの間」の開設に向けて

- 1 開催日時：令和6年11月10日(日) 13:30～16:00
- 2 開催場所：青森県総合社会教育センター 第2教材開発室
- 3 講師（ゲストスピーカー）札幌遠友塾自主夜間中学前代表 遠藤 知恵子 氏
- 4 参加者 ●名
- 5 主な内容
 - ①オリエンテーション
 - ②ゲストスピーカーのお話、質疑応答
 - ③グループワーク（自主夜間中学開設のポイント／学び直しスペース運営要項（案）のチェック）
 - ④全体でのシェアリング、ふりかえり



アンケートより（抜粋）

◆本講座に参加したきっかけ

- ・地域で自主夜間中学を作りたいので参加しました。
- ・青森で学習機会の保障をすすめたいと思って参加しました。
- ・地元の市民センターに置いてあるチラシを見つけ、参加することを決めました。私は現在、弘前大学教育学部で学んでいますが、「いじめ」や「不登校」などは見過ごしてはいけない問題だと思ったため参加しました。
- ・現勤務校でも過去にも不登校の生徒は必ずいる。学校だけでは解決が難しいことから、多様な学びの場づくりに関心があり参加した。学校外における私自身のネットワークづくりもしたいと考えたため。
- ・昨年も参加して、継続的に活動し考えたいテーマだったので。

◆講座について

- ・成田先生の話がわかりやすく、心に残る言葉がいくつもあったから。多職種の方々の多様な考えや意見が聞けたから。教育には多くの課題があるけれど、皆で考えていけば何かが変わるかもしれない、と希望が持てたから。【第1回】
- ・学校現場、教育行政、研究等、様々な経験と知見からとてもバランスのよいお話を聞いて、自分の中でもかなり考えを整理できました。グループも、今回のテーマについて学校に関わっているという共通点があり、たくさんのお話が聞いて大変有意義でした。【第1回】
- ・今の時代の子供達を支えていく法律などはたくさんできてきましたが、それを実行していく上で決して忘れてならないのは、主語は“子供”だということ。大人達が協同して共有していく力を持っていきたいと思えた講座でした。【第1回】
- ・周りが自分よりも年上の方だったので、私とは全く異なる意見や新しい切り口からの考えを知ること

ができて、自分のレベルが上がりました。大学にいと自分と年齢の近い友達と話すことが多くなるので、似た意見が出るし、誰も教育現場を詳しく知る人がいないので大変勉強になりました。今後も参加させて頂き、たくさんの方々の考えをお聞きしたいと考えています。本日はありがとうございました。次回もよろしくお願いいたします。【第1回】

- ・教育と福祉の結びつきは難しい。お互いに顔が見えるような機会をつくる必要があると初めて知りました。【第2回】
- ・様々な立場の方の意見を伺い、他分野の状態を知ることができました。フリースクールや事業所の情報がもっと整理されアクセスしやすくなると思います。【第2回】
- ・様々な立場の方と意見交流することで視座が広がりました。また、県内にこれだけ関心を持っている方がいることにも勇気づけられます。ありがとうございました。【第2回】
- ・「居場所」について考え直す良い機会になったから。グループが5つあるのでグループによって出る意見が異なっていて面白いと感じました。学校や家庭以外の居場所（依存先）をたくさん作ることで、1つの場所がだめでも別の場所があるという安心感があると思います。これは先週話題にもなった自己肯定感・自己存在感にも繋がることだと思いました。学校に行けない=悪いという認識を失くし、他の場所で学んでいるからいいという考えも普及してほしいと思いました。学校は勉強以外にも学べることが多くあるので、行かなくてもいい、失くなくてもいいという風には絶対にならないですが、「不登校」という言葉はどうしても悪く聞こえてしまうので、いつか不登校という言葉がなくなるとういなと思いました。【第2回】
- ・子どもの居場所・学びの場について考えるいい機会になりました。自分では考えつかないような意見が聞けてとても参考になりました。【第2回】
- ・昨年度からの受講で、各回ごとにテーマによって自分の考えが整理でき、今回の受講で今後の見通しまで、見えてきたのは大きな成果でした。今後の自分の課題が見えました。学びの多様化学校（不登校特例校）について学びを深めたいと思います。【第3回】
- ・遠友塾の取り組みは北海道のみならず、全国の先駆事例の一つとして、色んな苦勞もあった人だろうと話を通じて理解することができた。一度、札幌に赴いたおりに、見学したいと思った。
- ・実際に自主夜間中学を運営するに当たり、具体的に何を考えなければいけないか、何が問題になるのかを改めて確認することができた。【第3回】
- ・不登校の子の居場所、学習をする機会の場合、自主夜間中学について具体的なことを知ることができたから、今後の青森の「自主夜間中学」の運営について考える機会があつてよかったです。【第3回】
- ・自主夜間中学の運営要項が示され、具体的に動き出そうとしていることがとてもうれしい。問題は山積していることが出されたが、まず出発をすることが大事だと思う。【第3回】
- ・公立と自主のどちらも必要である、という理由についてお話を伺いとても納得いたしました。ニーズが高い青森県です。学ぶ喜びから人生が開かれたという方が一人でも増えるといいと思います。【第3回】
- ・これまでは、理想の学校などを話し合っていたが、今回は自主夜間中学の開設に向けて、具体的に話し合うことができたので、現実的なグループワークとなって良かった。どんなにたくさん案を出しても、問題点は必ず出てくるので、「まずは立ち上げる！」という考え方が重要だと考えた。3回全て参加したが、参加する前と参加した後では自分の考え方もかなり変わった。本当に本講座に参加することができて良かった。またこのような機会があつたらぜひ参加させて頂きたい。本日は本当にありがとうございました。【第3回】

- ・青森県（青森市）も小学生レベル、中学生レベルの学びが足りていない人が確実にいるので、夜間中学の必要性は、本当に強く感じています。【第3回】
- ・具体的に計画して実行までやれそうだなというのが他の人に見える事がとても良いと思う。他の地区や地域でも立ち上げが進められる可能性があると思うし、こういう事で勇気が出る人がいると思う。
【第3回】
- ・自主夜間、公立夜間どっちもあって連携していくべきだという、実際、札幌での相互連携、広域に渡る連携の実例も聞くことができよかったです。まずは自主夜間中学を設立、一步進む事の大きな力となったお話でありました。ありがとうございました。【第3回】

◆今後の展開について

- ・定期的にも、今後の動向、見通しなどについて情報をいただければと思います。（できることは協力します）
- ・講座の周知を広く行い（教員養成学部、教員免許をとれる学部）若い人たちが継続的に関わられるように工夫すると良いと思います。
- ・運営会議参加したいです。
- ・日程が合えば準備委員会に参加したいと思います。
- ・自主夜間中学について、スタッフを集めてからの方が難しい。目的、主旨、方針のすり合わせ、スタッフのミーティング etc・・・。
- ・青森に自主夜間中学「あおり・ら」の開設を加速させる必要を感じました。
- ・ぜひ「多様な学びの場づくりを探る講座〈パート3〉」を企画していただきたいと思います。
- ・今回のような勉強会を今後も続けて、青森県（青森市）も動き出せるように力をつけていかなければならないと思います。
- ・継続してやりましょう！出来ることは一緒にやりましょう！
- ・自主夜間中学運営となればぜひ協力したいと思っています。できることで関わりたいと思います。
- ・公立夜間中学に期待するところもありますが、柔軟な対応や運営を行うという点で考えれば（個人の意見としては）自主夜間中学に期待するところ大です。